



介護職員初任者研修取得！

令和6年度より新設された本校「福祉コース」の9名の生徒が、介護の基本的な知識や技術を習得する

「介護職員初任者研修（公的資格）」を取得しました！

今年度も「福祉コース」の2年生10名の生徒が資格取得に向け取り組んでいます。



合格したのは安富祖斗さん、上與那原麗菜さん、兼城梨々果さん、久保田優花さん、島袋ほのかさん、玉城幸輝さん、登川琴美さん、見崎護美さん、森山末夢さんの9人。

本校は本年度から同研修課程の認定校となった。軽度の知的障がいのある生徒の就労ニーズや、超高齢化社会の雇用ニーズに応えることなどを目的に福祉コースを開校。在学中に資格取得できる環境を整えた。介護職として働くため、必要な基本的な知識・技術を身に付ける同資格を取得するには、130時間の講義や実技演習を履修することが必要。同校では専門的な技術を身に付けるため、介護福祉士やケアマネジャー、看護師、作業療法士、理学療法士を非常勤講師として迎えた。

証明書を授け取りの豊永生徒と、激励した城間政次校長（後列左から2人目、6月19日、うるま市・沖縄高等特別支援学校）

人生が変わった■不安乗り越えた

1年間の学びが実を結び、生徒たちは、証明書を手に喜ぶ表情を浮かべた。

「人生が180度良い方向へ変わった」と胸を張ったのは見崎さん。介護の世界はゼロからの出発だったが、校長先生や外部講師の授業のおかげで合格できた。感謝。将来は作業療法士を目指して専門学校への進学を希望する。「社会に出て、現場で活躍できるように頑張りたい」と語った。

兼城さんは「最初は難しくて合格するかならず不安で泣いたりもしたけれど、乗り越える力がついた。保育士になるため進学し、子どもたちを育てる力も身に付けることができると述べた。

同コースの担当者は「福祉コースの現場では人材不足が課題。生徒たちが活躍できる人材になることが期待でき、授業を見た地域の高齢者施設や社会福祉協議会からも、一緒に働けるかと太鼓判を押してもらっている」と話す。城間政次校長は「適切な支援を提供すればどこまでも伸びる。可能性は広がるということを多くの人に理解してほしい」と生徒の頑張りをたたえた。

沖高特支2年

就労目標へ前進し笑顔

介護資格9人全員合格

県立沖縄高等特別支援学校（うるま市）の福祉コースを履修する2年生9人が、公的資格の「介護職員初任者研修」に全員合格を果たし、19日に開かれた修了式で証明書が授与された。1年間かけて取り組んだ資格取得で自信をつけた生徒たちは就労目標を明確にし、さらに学びを深める決意。3年に進級すると近隣の福祉事業所で定期的な実習を行い、スキルを高める。同研修は県立学校の福祉課や県外などでの実施例はあるが、特別支援学校では県内で初めてという。

（社会部・新垣亮）

国認定介護研修9人合格

沖縄特支高2年全員

【うるま】2024年度に沖縄高等特別支援学校（うるま市）の福祉コースを履修した2年生9人がこのほど、国認定の介護職員初任者研修に全員合格を果たした。時に猛勉強のつらさに涙しながら励まし合い、介護実務に当たる講師による130時間9科目の講義や、就業体験などを終えて筆記試験に合格した。9人は今春3年に進み、夢に向けて学びを重ねる。

前倒し履修 励まし合い猛勉強

福祉コースは25年度に開校予定だったが、「自分たちも学びたい」という9人の熱い思いで前倒し履修が実現した。この研修を実施する特別支援学校は県内で同校だけ。人材不足に悩む介護や福祉関連事業所側の期待も大きく、学校見学も増えているという。

研修を修了したのは安富祖斗さん、上與那原麗菜さん、兼城梨々果さん、久保田優花さん、島袋ほのかさん、玉城幸輝さん、登川琴美さん、見崎護美さん、森山末夢さん。森山さんは「こ

の勉強を仕事の現場で生かしたい」、久保田さんは「難しいなって思った部分もあったけど講師が優しく教えてくれた」と語る。上與那原さんは「プレッシャーで心が折れかけたが、大変だけどやりがいのある、自分のためになる仕事だと考えるようになった。合格できてとても誇りに思う」とした。

研修で「人生が180度いい方向に変わることができた」と喜ぶ見崎さん。吃音もあり、人との関わりが苦手な部分もあったという。「学校や外部の先生た



2年時に福祉コースを履修して介護職員初任者研修に9人全員が合格した県立沖縄高等特別支援学校の生徒ら＝3月19日、うるま市の沖縄高等特支

ちのおかげで合格できた。作業療法士を目指し、高齢者から子どもまで多くの人のために力をささげていける人材になりたい」と決意した。

3月19日の修了式で城間政次校長から修了証書を手渡され、9人は気持ちを新たにした。城

間校長は今春の退職を前に「学校の教育目標が一番大事にするのは、よりよい社会づくりに貢献できるようになること。この子たちにはそれができるし、可能性はどこまでも伸びるのだと社会で認知されていてほしい」と思いを語った。（石井恭子）

2025年3月23日（日）

沖縄タイムス

2025年4月5日（土）

琉球新報